

建設現場の最新技術を高校生に出前授業しました

- 令和元年東日本台風において甚大な被害が発生した久慈川及び那珂川では、様々な最新技術を投入し、地域の方々に安全・安心をすみやかにお届けできるよう、工事を進めています。
- 久慈川・那珂川の対策の現状をお知らせするとともに、劇的に変化している建設技術を実体験していただく出前授業を県立水戸工業高校の協力を得て実施しました。
- 授業を通して、建設現場の魅力を伝え、地域の守り手である建設業への理解を深めていただくとともに、台風第19号の被災を踏まえた対策の現状についてもお知らせすることができました。

開催日：令和3年3月16日(火)
参加者：茨城県立水戸工業高校 土木科1年(40名)
場所：水戸工業高校内
工事名：R1久慈川左岸竹瓦地先河道掘削外工事
施工者：高橋建設工業株式会社
主催者：常陸河川国道事務所、久慈川緊急治水対策河川事務所、一般社団法人茨城県建設業協会

出前授業の流れ

生徒の感想

先生の感想



<台風19号パンフについて>

- 河川の氾濫場所を分担し夜間にも復旧作業を行い、私たちは沢山の人手と苦勞で守られていることが分かった。

<ドローンの操作体験>

- 今まで数日間かかっていた作業が一日で済み、効率的に土木作業が進められるんだなと思いました。
- 今までの土木とは違う進化をし続ける土木の最新技術に興味が沸きました。

<遠隔臨場の操作体験>

- 目の前に自分の見ているものが画像として映し出され、音声もはっきりと聞こえ、遠くにいても指示者と作業をつなぐことができると感じました。
- 最新のDX技術を教わった。今のコロナ禍では密にならず、作業が早く進むと思った。

- 高校の教科書では伝えきれない最新技術を出前授業として実施していただき、生徒たちにとって良い経験となりました。なかでも、ドローン測量・リモートによる現場監督など、昔で言う3K(きつい・きたない・きけん)のイメージが払拭される授業で、生徒たちの建設業界への進路ガイダンスとしても、建設業界の担い手育成に繋がる行事となりました。関係の方々に感謝いたします。

施工者のコメント

- 今回の出前授業がきっかけとなって、建設業に興味を持ち、将来、建設業を選択してくれることを願っています。



T.K 高橋建設工業株式会社

協力会社：ドローン操作体験(株式会社かつら設計)、遠隔臨場(Atos株式会社)